

「環境未来都市」構想推進国際フォーラム in マレーシア ～アジアにおける持続可能な都市モデル形成に向けて～

シンガポール事務所

2月8日(日)、マレーシアのジョホールバル市で「環境未来都市構想推進国際フォーラム」が開催されました。内閣府及び内閣官房主催で行われた本フォーラムは、日本の環境未来都市及び環境モデル都市と、マレーシア及び近隣諸国の都市間連携や関連企業のビジネスマッチングを通じて、アジアにおける持続可能な都市モデルの形成を図るため実施されたものです。

○ 「環境未来都市」構想とは・・・

「環境未来都市」構想は国の成長戦略に基づく国家戦略プロジェクトの1つで、世界的に進む都市化を見据え、持続可能な経済社会システムを実現する都市・地域づくりの成功事例をつくり、国内外への普及を目指すというものです。

環境未来都市は、環境や高齢化など人類共通の課題に対応し、環境・社会・経済の3つの価値を創造することで、「誰もが暮らしたいまち」、「誰もが活力あるまち」の実現を目指す先導的プロジェクトに取り組む都市・地域です。また、環境モデル都市は持続可能な低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げ先駆的な取組みにチャレンジする都市で、目指すべき低炭素社会の姿を具体的に示し、「環境未来都市」構想の基盤を支えます。

現在は11の自治体・地域が環境未来都市に、23の自治体が環境モデル都市に選定され、それぞれ取組が進められています。

○ 「環境未来都市」構想推進国際フォーラム in マレーシア

本フォーラムはこれまで、日本国内で開催されてきましたが、マレーシア政府が進めるイスカンダル開発計画において「環境未来都市」構想が活用されていることもあり、今回初めて海外での開催となりました。

【マレーシアでの取組・事例について】

(マレーシア政府における取組)

マレーシア・ジョホール州では、2006年に発表されたイスカンダル開発計画に基づき開発が進められています。同計画を統括するのは、マレーシア政府により設置された「イスカンダル地域開発庁」で、マスタープランの作成や法整備、開発に係る調整、広報等を行っています。



ジョホールバル市長によるウェルカムスピーチ

イスカンダル開発計画では大規模な開発に伴い、温室効果ガス排出量の増加など環境負荷の増大が懸念されてきました。そのため同庁では、2025年に向けた低炭素社会計画を策定し、2025年までに2005年比で温室効果ガスの排出量を40%削減することを目指しています。低炭素社会や持続可能な未来都市を実現するため、環境配慮型の輸送や移動管理システムや環境技術の開発など各種取組を進めています。



各団体からのプレゼンテーション

また、首都クアラルンプールの南約25kmに位置し、マレーシアの行政新首都として開発中のプトラジャヤでも、環境配慮型都市への移行に向けた取組が進められています。「ガーデンからグリーンへ」を合言葉に、都市活動や都市開発が環境配慮型のビジネスを促し、環境に優しいライフスタイルを創造することで、生活環境の質を向上させることを目指しています。

(ジョホールバル市における取組)

近年進む急速な開発により今後、約20,000の住宅ユニットの建設や10万人の居住、インフラ需要の創生、交通量の増加や交通渋滞など様々な社会変化が想定されています。

同市ではグリーン・ネイバーフッド・イニシアティブとして環境配慮型の住宅開発に取り組んでいます。既存のマスタープランについても、より広い視点で高いレベルに引き上げるため、修正や準備過程の見直しを検討しており、日本の都市とも連携を図りながら都市づくりを進めていきたいとしています。

【日本の各自治体での取組・事例について】

今回は日本から環境未来都市や環境モデル都市に選定されている、横浜市、京都市、北九州市、富山市、東松島市、二セコ町の6自治体が参加し、取組や事例を紹介しました。

北九州市からは環境未来都市のアジア展開をテーマに、都市環境行政のノウハウを体系的に整理した「北九州モデル」や、2012年に環境姉妹都市を締結したスラバヤ市（インドネシア）との環境配慮型都市の実現に向けたこれまでの取組、今後のアジア各都市への展開について紹介しました。



富山市・森市長によるスピーチ

京都市は、環境にいいことしていますか?を意味する「DO YOU KYOTO?」を合言葉に進められる低炭素都市の実現に向けた取組や歩行者を主役としたまちづくり、市内全小学校で実施されている「こどもエコライフチャレンジ」の取組を紹介しました。こどもエ

コライフチャレンジの取組はマレーシアでも取り入れられ、2015 年にはイスカンダル開発エリアにある 198 の小学校で実施される予定となっており、地域や家庭でのごみ削減や節電の実践が期待されています。

富山市は、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指す取組や、農業用水を活用した小水力発電などについて紹介しました。2014 年には国連から日本初のエネルギー効率都市にも選ばれており、今後の取組にも注目が集まっています。

○今後の都市のあり方

都市化の過程では経済や産業発展に伴い、大気汚染やごみ処理、エネルギーなど環境面における課題が生じています。持続可能な都市モデルの実現は、成長続く ASEAN をはじめ世界各国でも求められています。本フォーラムをきっかけに、日本とマレーシアをはじめとする各国による連携が一層促進され、世界に向けて新たな都市モデルが発信されることが期待されます。

(三原所長補佐 鹿児島県派遣)

